

(3) 平成2年2月10日

修学旅行新聞

(第三種郵便物認可)

平成元年度関修委修学旅行実施報告(1)
890校の実態を取りまとめ六月である。
宿泊はすべて二泊三日である。

三宿泊数と実施学年

県・コース	学校数・人件	学 校 数		人 数			
		割付	実績	増減	割付	実績	増減
茨城	140	138	-2	32,926	32,250	-	676
栃木	133	131	-2	27,923	27,192	-	731
群馬	53	50	-3	6,019	5,867	-	152
埼玉	345	347	2	97,742	98,135	+	393
千葉	150	148	-2	43,334	42,668	-	666
合計	821	814	-7	207,944	206,112	-	1,832
前年度	818	829	11	217,620	217,632	+	12

第1表 平成元年度 県別関修委加盟状況
(校・%)

県名	設置校	加盟校	加盟率	前年度加盟率
茨城	228	138	60.5	61.8
栃木	172	131	76.2	77.3
群馬	182	50	27.5	29.1
埼玉	412	347	84.2	85.6
千葉	364	148	40.7	41.4
合計	1,358	814	59.9	61.2

加盟率=加盟校数÷設置校数×100

（財）全国修学旅行研究会
(山本種一理事長)と関東地区公立中学校修学旅行委員会
（関修委）木村一会长・茂原市立茂原中学校長は、平成元年度に実施した修学旅行の実態調査の結果をとりまとめた。この調査は、関修委に加盟した修学旅行を行った八百十四校(加盟校)を、独自計画による実施の協力校七十六校の、合計八百九十校について集計したものである。

報告の内容は次のとおり。実施の時期と宿泊数、参加人数と不参加生徒数、実施学年と在籍生徒数等が、各自の協定によって修学旅行を行った八百十四校(加盟校)を、独自計画による実施の協力校七十六校の、合計八百九十校について集計したものである。

この調査は、関修委に加盟した修学旅行を行った八百十四校(加盟校)を、独自計画による実施の協力校七十六校の、合計八百九十校について集計したものである。

吉野ヶ里 遺跡への旅(1)

古賀 静雄

ばれて、きらめく文化が現代へと引き継がれたらことを物語り、遠い弥生のロマンを思われる、偉大な遺跡について御案内致します。

(一) 環濠集落

吉野ヶ里遺跡中央部に弥生時代前期初頭の穴倉が発見され、弥生時代が始まつて間もなく集落ができるとは明らかで、引き続き丘陵全体に集中して、形成され、丘陵南部に弥生前期の環濠集落が現れる。

当時の環濠内の広さは約四町(約五百メートル)で、丘陵は更に拡大されて、丘陵その部に環濠を巡らせ、集落の規模は大きくなつて来ている。外濠の断面はV字形で、當時は深さ二・五尺・幅十尺程度と考えられている。環濠集落全体の規模は約二十五町(約八百メートル)以上の大規模なもので、その中に弥生後期を中心とした古軒以上の堅穴住居跡が検出されてい

る。現在の高さは約二・五尺(約百メートル)で、馬台国(の女王)の墓と報道される。この環濠集落内部の丘陵頂部は南北約二百メートル東西約三百メートル、墳丘は地山

東北

約百メートル

南北

約四十メートル

東西

約三十メートル、墳丘は地山

を整形した後、黒色土を高さ

一・二倍程積み上げ、更にそ

の上に版築状に盛土して

いる。現在の高さは約二・五

尺(約百メートル)

南北

約三百メートル

東西

約二十メートル

南北

約四十メートル

東西

約三十メートル

南北

約四十メートル

東西

約三十メートル</div